

戦後（1945～1950） その8

《朝鮮戦争、サンフランシスコ講和条約と多摩川沿川》

1948年（昭和23）4月15日、解雇通告を期に第三次東宝争議が勃発します。労働組合側は、砦（きぬた）の東京東宝撮影所（注1）入口にバリケードをして占拠。ピケ破りには、特撮用の大型扇風機で、砂利、ガラス、塗料を相手にぶちかます作戦でした。

会社側は、8月19日、裁判所から撮影所明渡しの仮処分を得て、警察官2000名に加え、アメリカ軍地上部隊も包囲し、戦車を先頭に正門突破を図ります。この事態に、組合側は解雇を撤回させて撮影所を退去。

この直前の8月15日には、大韓民国が建国され、翌9月9日には、朝鮮民主主義人民共和国が建国。翌1949年（昭和24）10月1日には、毛沢東主席率いる中国共産党が国共内戦に勝利し、中華人民共和国が建国されました。

そして1950年（昭和25）6月25日、朝鮮戦争が勃発します。このとき、下丸子にあった三菱重工の工場（注2）がアメリカ軍の戦車の修理工場となり、東海道本線貨物支線（品鶴線）から引込み線が建設され、米軍の管理下に置かれます。

このとき、引込み線の建設のために桜が伐採されます。実は、その桜は、1929年（昭和4）、時の川崎市長を会長とする1市8町村で「大多摩愛桜会」が、堤防強化のため、両岸約40キロにわたって1万本の桜を植えたものでした。

朝鮮戦争が停戦となる前年の1952年（昭和27）、サンフランシスコ講和条約が結ばれます。これを記念して、ガス橋付近に桜が植栽され、「講和桜」と呼ばれました。

引込み線は、1956年（昭和31）6月に米軍の管理下にありましたが、その後、撤去され、桜が再度植栽されていきました。

なお、現在、三菱重工工場跡地は、高規格堤防となってマンションが立ち並び、講和桜は、堤防上に移植され、またそれに平行して新しい桜も植えられ、「二十一世紀桜」と命名されています。

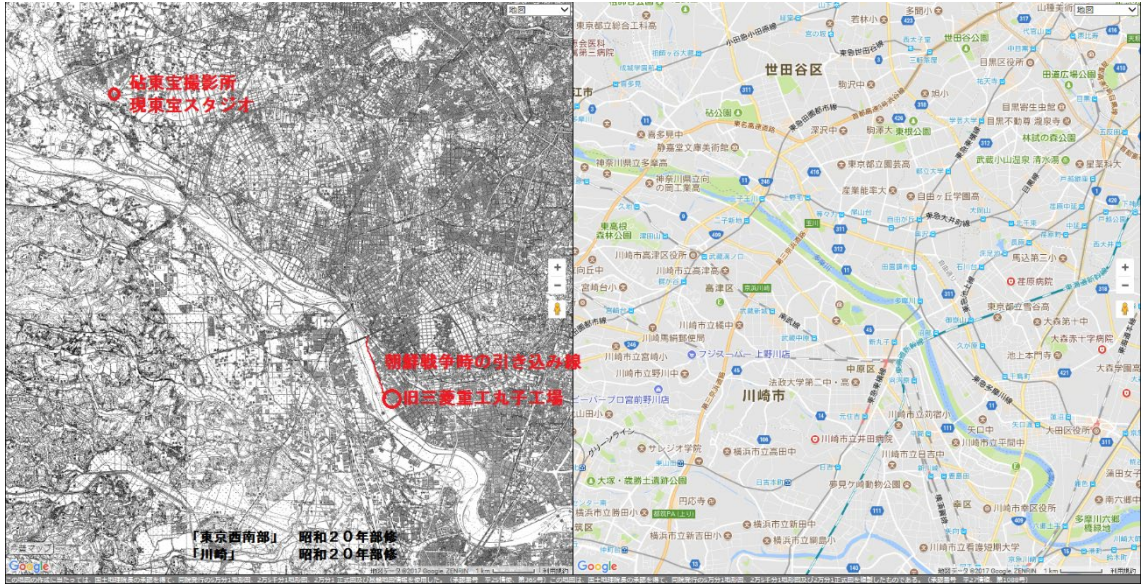
また、講和条約を受け、占領されていた羽田空港（注３）が一部返還され、「東京国際空港」として再出発します。当初は、まだ旅客ターミナルなどの施設は整っておらず、小規模な旅客取扱施設がある程度でしたが、１９５５年（昭和３０）、新しいターミナルがオープンします。

注１：この労働争議は、戦後最大といわれ、アメリカ軍まで出動したということは、２年後から始まるレッドパージの先駆けといえる事件でした。この撮影所から、１９５４年（昭和２９）に、「７人の侍」や「ゴジラ」の名画が誕生しました。現在は、東宝スタジオとして存続しています。

注２：この三菱重工工場は、戦前、日本陸軍の戦車を製造していました。１９７１年（昭和４６）からは三菱自動車工場となります。跡地のほとんどは、多摩川高規格堤防として整備されていますが、跡地の一角に建つ創価学会池田記念館は、京浜工事事務所調査課長のとき高規格堤防にすることを提案しましたが、交渉が不成立でした。成功していれば、直轄河川最初の高規格堤防になるはずでした！

注３：日本を占領した連合国軍のうち、関東地域の占領を担当したアメリカ軍の管理下に置かれ、ハネダ・アーミー・エアベース（羽田陸軍航空隊基地）となります。そして、拡張を計画し、１９４５年（昭和２０）年９月２１日、アメリカ軍が警察を通じて拡張地区内の周辺住人に４８時間以内の強制退去を命じました。そのとき、穴守稲荷神社の大鳥居だけは、更地（後に駐車場となる）に残されます。こうして、旧Ａ滑走路（ $2145\text{m} \times 45\text{m}$ ）と旧Ｂ滑走路（ $1650\text{m} \times 45\text{m}$ ）が１９４６年（昭和２１）６月までに新設されました。１９５２年（昭和２７）に、一部の施設が返還され「東京国際空港」として再出発します。なお全面返還されたのは１９５８年（昭和３２）でした。

写真は、①東宝撮影所、旧三菱重工丸子工場の位置図、②三菱重工引込み線地図（『大田区の文化財 第２４集 地図で見る大田区（１） 26. 昭和３０年代の田園調布方面』より引用・一部加工。Blog「示山橋」掲載資料より）、③ガス橋の「二十一世紀桜」（細見撮影）、④１９５２年「羽田国際空港」誕生を祝ったアメリカ軍（HP毎日新聞写真特集掲載写真より）、⑤１９５５年完成の新ターミナル（Blog「世界メディア・ニュースとモバイル・マネー」掲載写真）、⑤旧穴守稲荷神社大鳥居（HP「デジカメ散策 大田区の史跡・歴史」掲載写真）





進駐軍より返還を祝い飾られた羽田空港入口 = 1952
(昭和27)年7月

